

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として気象庁が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

絶えず変化する風速

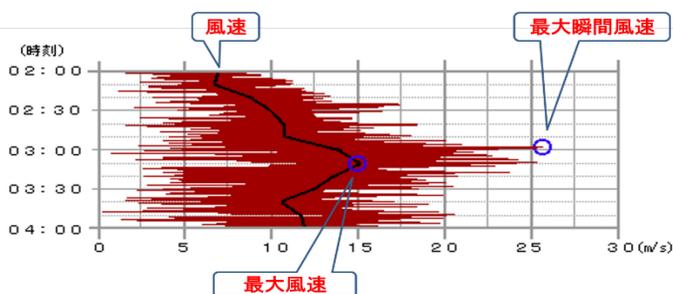
皆さま、防災館などで暴風体験をなさったことあるでしょうか？“凄い風だった”とか、中には“思ったほどでもなかった”とか、感じ方もいろいろあるようです。葛飾区の近くでは東京消防庁 本所防災館に“暴風雨体験施設”がありますので、是非ご体験ください。

ただ、体験施設の多くは、大型ファンを回転して再現される風で、言ってみれば巨大な扇風機によってつくられる風、強弱のないほぼ一定の風速です。

自然の風では、風速も風向も絶えず変化しているので、観測値や予想値に用いられる風速も風向も、特に断りがない限り 10 分間の平均値が用いられています。

図をご覧ください。自然の風の風速を記録したものです。風速は絶えず強弱を繰り返し、“風の息”と呼ばれるある幅をもって変化しています。

最大風速と最大瞬間風速



風は、風速も、風向も常に変化しています！

図からご理解いただけるように、瞬間風速は風速の凡そ 1.5 倍前後、時には 2 倍ほどになることがあります、この倍数を“突風率”と呼んでいます。予報・警報などで風速は〇メートルと予想されたとき、瞬間風速はその 1.5 倍程度の風が吹くものと見込む必要があります。物が飛ばされたり、私たちの身体に影響を与えたりするのは、“瞬間風速”です。

“秒速〇メートルの風と言われても・・・、ピンとこない・・・”とおっしゃる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。では、秒速を時速に換算してみてもいいでしょうか。秒速に“3.6”をかけると時速になります。秒速 1 メートルは時速 3.6 キロ、人が歩くほどの速さです。秒速 5 メートルは時速 18 キロ、ママチャリをやや力を込めて走らせたぐらいの速さです。秒速 10 メートルは時速 36 キロで、市街地の一般道を走る乗用車ぐらいの速さです。この風速では、傘を広げるとは危険だと推測できるのではないのでしょうか。

強風にあおられて身体をもっていられることも少なくありません。1、2 歩動かされると身体を屈め踏ん張って止めないと、とんでもないことになることもあります。小さなお子さんやご高齢者は特に要注意です。前方からの風が強いと、どうしても目を伏せ身体を丸めてしまうため、正面が見づらく視界を十分確保できなくなりますので、人・物・車などとの衝突、飛ばされてくる物にも注意が必要です。

人生では逆風が吹くこともありますが、皆さまには順風満帆の程よい風が吹くことを願っています。